

【編集後記】

今回は 26 だけでの編集作業となり、前号とは違った大変さがありました。レイアウトでは中心となって作業を行いました。表紙の作成など責任重大な部分もありましたが、レイアウトは本当に楽しいです。自分たちで何かを作り上げること、様々な人のお話を聞くことができるということ、本当に良い経験になっています。協力していただいた方に感謝します。(26 生 網野瑞貴)



今回は飛翔編集委員として 2 回目の仕事で、「輝いてる人」と「研究室紹介（社会探究領域）」の取材を担当しました。インタビューをさせていただいていつも思うのは、先生や先輩のお話を生で聴けるってすごいいいな！ということです。インタビューに関することだけでなく、たわいもない話からここには載せられないオフレコの話まで（笑）たくさんの面白くて、ためになるような話をしてくださって本当に感謝です。ありがとうございました。

先生や先輩、飛翔編集メンバーそれぞれの思いが詰まった飛翔なので、最後まで読んでくださると嬉しいです！（26 生 石川佳奈）



「飛翔」に携わって、様々なことを経験しました。締め切りの追われることや、教授との連絡がうまくいかなかったことも今となっては良い思い出です。ありがとうございました。(26 生 岡田菜緒)

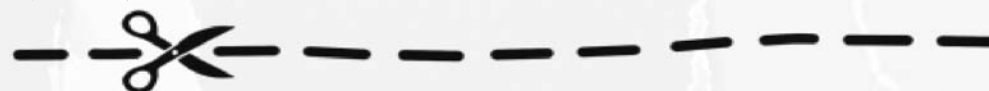


大学生活にも慣れてきてバイトも始めて充実した 2 セメが終わりました。今回、輝いている人のインタビューで素晴らしい先輩方の話を聞き、刺激を受けて、もっといろいろなことに挑戦したいなと思ったし、ただただかっこいいなと思いました。このような先輩方はフットワークが軽くてすごいなと思いました。27 の皆さんには目的をきちんと決めて日々、大学生活を頑張ってもらいたいと思います。この学部では目標がないと何もしないまま 4 年間で過ぎてしまうということになりかねないので... もし、編集員みたいなことがしたいとか、大学に入って何か新しいことをしたいと考えているのならぜひ飛翔に入ることをおすすめします。新しい自分を見つけることができるかもしれませんよ。(26 生 編集副委員長 尾関寛之)

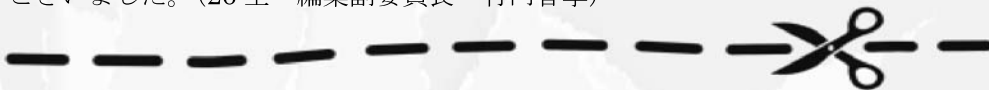
前号ではラインへの反抗を宣言しましたが、その結果今号では編集会議から締め出されるという制裁を被りました。・・・でも編集委員のみなさんには今回もいろいろ迷惑かけたし申し訳なく思っています。別件ですが自らを表現したい、突き抜けたことをやってみたい衝動を秘めておられる方は是非僕に御一報ください。(26生 柴山真一)



前回の反省を活かしきれず、今回もギリギリの提出を行ってしまい、何でも先延ばしにしてしまう性格をいい加減直さなければならぬと思いました。取材に関しては、人の話の聞き方・自分の考えの伝え方などを学びました。もともと積極的に人と話すことに抵抗感があったので、飛翔の編集委員を経験することでその不安が解消されていくという実感もあり、この経験は非常にありがたいものになりました。(26生 関よしの)



インタビューの取材に行く前は、いつも過去の飛翔から質問内容を割り出しているのですが、この度の取材にて、それだけではインタビューが成り立たないということに改めて感じました。インタビューをさせていただく立場である以上、取材する相手が何をなさっているのか、あらかじめ知っておくということが一つの礼儀なのではないかと考えることができました。ご協力してくださった教授、OBの方、ならびに事務の方々とかわりを持つことで、学び考えることができました。ありがとうございました。(26生 編集副委員長 竹内音寧)



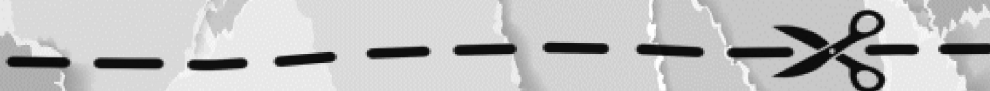
インタビューの音声を文字に書き起こして、内容をまとめる作業は想像以上に大変でした。本のレビューを書くのは楽しいのでまた機会があれば書きたいと思います。文章力は知力を表すものだと思うので磨いていきたいです。(26生 中森慎介)



前号と同様に編集委員全員に支えられながらなんとか完成させることができました。今号は一編集委員であるとともに編集委員長として、学生支援室の担当の方や前号の編集長にアドバイスや助けをいただいて手探りの状態での作業でした。そのようなみなさんにただ感謝するばかりです。次号からは新入生も加わるということで、より一層「飛翔」が良いものになるよう努力していきたいです。(26生 編集委員長 宮里洋志)

現1年生が入学して、1年が過ぎようとしています。そろそろ、大学生活の道筋がみえてきたころだと思います。飛翔が、あなたがたの大学生活を豊かにする羅針盤のような役目を果たせたら何よりです。学生編集委員の方々のこの1年間の成長には、目をみはるものがありました。4月には、新入生が入ってきます。愛の鞭をよろしく。

広報・出版委員会 飛翔担当 和田 正信

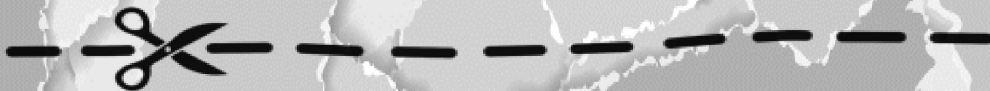


私も一読者として飛翔から様々なことを学んでいます。特にインタビューの項目や、総科レビュー、飛翔な日々からは、いまの総科のみなさんの興味の方向がわかって楽しいです。取材や執筆、編集は簡単な作業ではないですが、多くの人に情報を伝えることの醍醐味と責任を感じられたことでしょう。

同じ場所で生活しているのに、知らないことが多いものですね。

新入生のみなさんとも場所と情報を共有して、共鳴して新しい潮流を生み出すことを期待しています。

広報・出版委員会 飛翔担当 匹田 篤



飛翔87号の編集作業に入ってから半年間には心を痛めたこと、感動したことなど多々ありますが、私は2015/1/31ドイツのヴァイツゼッカー元大統領の訃報に接し、「荒野の40年」をあらためて読み返した次第です。1985年「世界」で初めて読んだ当時も総科学部に在職しており、感動したことを思い出します。編集委員のみなさんが「飛翔」の編集に際し、様々なものや人との出会いを通じ、感動のできる豊かな社会人となられことを祈念しています。私ごとではありますが、総合科学部報「飛翔87号」発刊と同日に定年退職を迎えることができますことに感謝しています。

総合科学研究科支援室（学生生活支援担当）木田 恵子

